

令和6年度鹿児島県再犯防止推進会議の開催結果について

1 開催日時

令和6年11月19日（火曜日） 午後2時から午後3時30分まで

2 開催場所

県社会福祉センター別館会議室

3 出席委員等

山口勇弥委員，西選子委員，秋野能廣委員，井上真由美委員，中谷有貴委員，樋口雅明委員，山室真樹委員，倉ヶ崎和治委員，御牧忍委員，長野磋や子委員，永山忍委員，松下裕子委員，坂元葉子委員，豊留満代委員，三浦一広委員，南靖子委員，南上陽子氏（徳元秀明委員の代理），石川しづ子氏（岩崎昌弘委員の代理），鳩宿文男氏（深野木信委員の代理），山崎圭氏（長久保剛委員の代理）

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者数

なし

6 議事

- (1) 会長選出について
- (2) 第2次鹿児島県再犯防止推進計画の概要及び成果指標について
- (3) 再犯防止に関する県の取組について
- (4) 再犯防止推進に関する関係機関・団体の取組等について
- (5) 課題等を踏まえた今後の取組等について
- (6) その他

7 主な内容

(1) 会長選出について

- ・ 秋野委員（鹿児島保護観察所）

鹿児島大学大学院の山口委員について，臨床心理学が御専門で，学識経験も豊富であり，鑑別所や刑務所での勤務経験があり，実務経験をもとにした非行・再犯防止のための研究をされていると伺っているので，会長をお願いしてはどうか。

【異議なし（山口委員が会長に就任）】

(2) 第2次鹿児島県再犯防止推進計画の概要及び成果指標について

【事務局（青少年男女共同参画課長説明）】

- ・ 第2次鹿児島県再犯防止推進計画の概要について説明
- ・ 成果指標のデータをもとに本県における再犯等の現状について説明
- ・ データから見える再犯防止に係る課題について共有

(3) 再犯防止に関する県の取組について

【県関係課・室より説明】

- ・「再犯防止推進事業」について（青少年男女共同参画課）
- ・「支援少年に対する就労支援」について（人身安全・少年課）
- ・「鹿児島あんしん居住サポート事業」について（住宅政策室）

【質疑応答】

- ・長野委員（鹿児島県更正保護女性連盟）

再犯防止推進計画を策定していない市町村が半分以上ある。福祉課で福祉の一環として取り組んでいる市町村が多いが、各市町村の再犯防止推進施策担当を首長部局にすることで策定も進むのではないかと思うので、取組の更なる努力をお願いしたい。

- ・事務局（青少年男女共同参画課）

担当課は市町村の判断となり、こちらから指定することは難しい。昨年度から開催している市町村とのネットワーク会議において、市町村や関係課の連携ということについて併せてお願いしながら、少しでも市町村が計画を策定して、事業に取り組んでいただくよう努めていきたい。

(4) 再犯防止推進に関する関係機関・団体の取組等について

- ・石川氏（鹿児島県保護司会連合会）

刑務所から出所された方が孤立されないように、県民への啓発活動を主な目的として、再犯防止シンポジウムを開催している。また、居場所づくりとして「ひまわり教室」を年に10回程度開催し、料理教室や交流会等を行っており、対象者の居場所として定着している。対象者には身元引受人がおらず、医療機関とのつながりが課題である。

- ・長野委員（鹿児島県更正保護女性連盟）

保護司やBBSと連携して、「ひまわり教室」に取り組み、美化活動として繁華街や神社の清掃などもしている。ただし、更生保護女性会は会費だけで活動しているため、自分たちで家にあるものを持ち寄るなど、様々な工夫をして取り組んでいる。県の予算も減ったと聞いているので、元の金額に戻してほしい。

- ・事務局（青少年男女共同参画課）

予算について確約することは難しいが、少しでも確保できるように努めてまいりたい。

(5) 課題等を踏まえた今後の取組等について

- ・秋野委員（鹿児島保護観察所）

令和5年12月から、更生保護に関する地域援助というものが始まり、立ち直り支援の期間が終了した方に対しても、地域援助という形で関わっている。一人一人の再出発をサポートするという形で、「リスタポ」という窓口を作っており、専門家の援助、もしくは行政機関やボランティア、福祉機関などと連携しながら、再犯・再非行を防ぐ取り組みを行っている。

・中谷委員（鹿児島刑務所）

就労に向けて本人に働きかけ、希望する方については就職支援の指導等を行っている。出所後の具体的なビジョンがないまま就職支援を希望しない受刑者に対する働きかけが課題である。来年6月からの拘禁刑の導入に向け、様々なプログラム等を試行的に実施している状況であり、就労に生かせるような取組を行っている。

・鳩宿氏（更生保護法人草牟田寮）

居住支援に関しては、保証会社を通して協力的な不動産業者をお願いしたり、保証会社を自分で持っている住宅会社をお願いしたり、更には県の居住支援協議会の方に相談したりして何とか対応できている状況である。就労支援については自立していくための資金を稼ぐ就労というのが現状になっている。業種が限られているため、なかなか希望する職種につけないというのが長年の課題である。

・山崎氏（鹿児島ダルク）

学校などへの講演会、相談事業、ダルクの紹介などを行っている。最近では、市販薬による薬物依存が増えている。薬物依存については様々な要素が複雑に絡み合っているため、回復の度合いは様々であるが、訓練を通して大きな変化や成長と社会に向けての還元が必ず起きてくるので、長い目でお付き合いいただきたい。

(6) その他

・三浦委員（NPO法人奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」）

子ども達には、優しくふれ合いをしてあげる慈愛の心が一番大切である。寄りそったり、肯定的に存在を認めたりするなどメンタル的な支援をすることで、心の居場所ができて生まれ変わることができる。